

製品名: T2R1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18557**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	33kDa

抗原情報

遺伝子名	TAS2R1
別名	TAS2R1; Taste receptor type 2 member 1; T2R1; Taste receptor family B member 7; TRB7
遺伝子 ID	50834.0
SwissProt ID	Q9NYW7
免疫原	抗血清はヒト TAS2R1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 6-55

背景

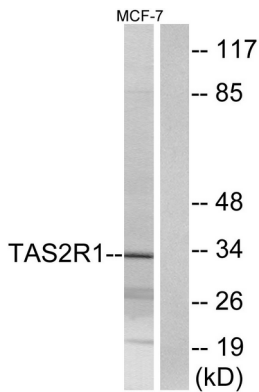
この遺伝子は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーに属する候補味覚受容体ファミリーのメンバーをコードし、舌および口蓋上皮の味覚受容体細胞に特異的に発現する。このイントロンを含まない味覚受容体遺伝子は、苦味受容体として機能する 7 回膜貫

通型受容体タンパク質をコードしている。この遺伝子は、苦味化合物である 6-n-プロピル-2-チオウラシルの検知を制御する遺伝子座 (PROP) の位置である染色体 5p15 にマッピングされている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 苦味の知覚に関与する可能性のある受容体であり、ガストデューシンと関連している。消化管内容物の化学組成を感知する役割を果たす可能性がある。この受容体の活性は、 α ガストデューシンを刺激し、PLC- β -2 の活性化を媒介し、TRPM5 のゲーティングにつながる可能性がある。、その他: ほとんどの味覚細胞は、限られた数の苦味化合物によって活性化される可能性がある。個々の味覚細胞は、苦味刺激を区別することができる。、類似性: G タンパク質共役受容体 T2R ファミリーに属する。、組織特異性: 舌および口蓋上皮の味覚受容体細胞のサブセットで発現し、ガストデューシン陽性細胞にのみ発現する。、

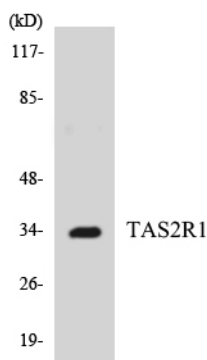
研究分野

味覚伝達;

画像データ



TAS2R1 抗体を用いた MCF-7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TAS2R1 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。